「私たちの明るい社会のために」

新宮市立緑丘中学校　三年　矢澤　怜実

①

私は最近、ニュースで加害者家族のインタビューを見ました。そこでは加害者の家族として生きなければならない、辛い毎日について語られていました。私はそのインタビューを見ていて、ネットに書かれていたある言葉がとても心に残りました。それは

「こいつは一生幸せになってはいけない。もちろんこいつの家族も。」

と言う言葉です。私はこの言葉を聞いた時に、罪を犯かした本人ではない家族が、幸せに生きてはいけないのは何故だろうと、とても疑問を感じました。もちろん、罪を犯かしてしまった加害者本人は、自分の過ちを認め、被害者の家族の分まで罪を償って生きていくべきです。しかし、本人が罪を償って生きていくことと、加害者の家族が幸せに生きてはいけないことは、何も関係のないことだと私は思います。現代ではネットを通して簡単に、バッシングや個人情報の流出をすることができます。被害者の立ち場になってその人に寄

20×20

り添うことは大切なことですし、被害者を恨む気持ちもあって当然だと思います。また、犯罪を減らすためには、犯罪が起きる前に、周りの家族や友達が、気づいてあげることも必要かもしれません。しかし、だからその家族がバッシングされても当然だろう、と言う意見は違うと思います。どんなに悪いことをしたAの家族であっても、その家族に罪はありません。しかし、その事実を勘違いしている人が、日本人には特に多いと私は感じます。

その家族に対する、バッシングや個人情報の流出は、正義でもなにもない、単なる嫌がらせや、下手をしたら犯罪になりかねない行為だと思います。現に、本来の目的をはずれている、加害者の家族への投稿もいくつかみられます。加害者を恨んでいるはずの人が、加害者となって、新たな被害者を作り出す。これは、あってはならないことだと思います。加害者の家族を恨んでも、被害者が減るわけではありません。少しでも多くの被害者を減

らすには、私たちの見方や、考え方を変える必要があるのだと思います。ネットの普及により、簡単に発言や拡散ができる世の中になった今、自分の発言に責任を持っていない人が多いのではないでしょうか。ネット上でいじめられたり、バッシングされたりしたことによって命を絶ってしまう人が最近は増えてきています。このくらいなら大丈夫だろうと言う軽はずみな気持ちでの投稿が、人を傷つけることがあるということをもっと自覚するべきだと思います。

イジワルネット上の誹謗中傷、この言葉は携帯を常日頃使っている私たちにとって、一度は耳にしたことがある言葉だと思います。先程述べたように、ネット上のトラブルによって命を絶ってしまう人は少なくはありません。加害者の家族も誹謗中傷に耐えられず、命を絶ってしまうケースがあります。しかし、イジワルネット上の誹謗中傷という言葉を聞いて明くの人は、私には関係ないなどと思って

いることでしょう。直接的に会って傷つけた訳ではない。さらに顔も名前も知られていない。ネット上では、このような安心できる状態で発言することができるため、どんなに酷い言葉を投稿したとしても、傷つけた本人は傷つけたことにすら気がつかないのです。このような状況によって、いつまで経っても被害者は減らないのではないでしょうか。被害者を少なくするためにも、ネットでの投稿についてもう一度考えなければならないと思います。その対策として外国では、全ての書き込みにおいて、投稿者のIPやIPアドレスを最初から公開すること が定められている国もあります。これによって投稿者の特定をしやすくし、悪質な書き込みを抑制することができます。日本でもこのような、自分の発言に責任を持てる形で投稿をする仕組みにすると、少しは今の現状が変化するのではないでしょうか。一人ひとりの意識や、ネット上の仕組みを変えるだけでも、傷つく人や命を絶って

しまう人が少なくなると思います。

社会を明るくするには、犯罪を無くそうとするのではなく、被害者を減らそうとすることが大切です。被害者は犯罪だけによって被害を受けているわけでは無いと思います。例え犯罪が無くなったとしても、それ以外のことで傷つく被害者が出てしまったら、社会は明るくなったとは言えません。私たちが胸を張って、日本の社会は明るいと言うためには、一人ひとりがネットや様々なところで発言に気をつけ、偏見や差別をなくすことが一番必要とされていることだと私は思います。